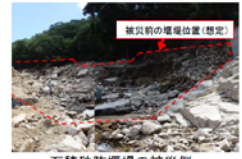


<概要>

- ・平成30年7月豪雨に伴う石積砂防堰堤の被災を受け、国土交通省において検証チームが設置され、被災メカニズムの推定、対策の方向性がとりまとめられた。
- ・それを受けて、管内にある石積砂防堰堤のうち、下流保全対象、既設砂防堰堤の天端幅が小さい等から優先度を勘案し、緊急的に補強改築を実施した。
- ・補強改築の主なポイントは、土石流の衝撃による堤体の破壊及び土石流の流下に伴う堤防天端の欠損に対して現状の機能向上を図り、土石流災害の防止または軽減を目指すものである。

【検証チームとりまとめ概要（抜粋）】 https://www.mlit.go.jp/river/sabo/isidumi/isidumientei_taiou.pdf

○被災メカニズムの推定



○対策の方向性

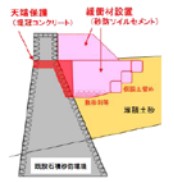
被災のおそれが高く地域への影響の大きな石積砂防堰堤について以下の観点から優先的に対策を講じることが必要

> 優先的な対策が必要な箇所

- ・安全性の観点：(場) 巨礫の流下する勾配の急な箇所等 (施設) 天端幅の小さな堰堤、堤高の高い堰堤、下流側の堰堤、等
- ・重要性の観点：基幹的な堰堤、人家に近接する堰堤、貯砂量が多い堰堤 等

> 対策手法の観点

- ・現行基準に基づく「改築」とあわせて、用地の制約等、着手に期間を要する場合には、段階的な「補強対策」やソフト対策(災害リスクの地元周知)などを組み合わせて対応 ※流域内の施設配置も考慮の上、安全の確保が図られるよう検討する。



ポイント①:

本体・袖部への土石流直撃を緩衝・抑制
⇒粗石コンクリートによる緩衝材の設置



ポイント②:

土石流の衝撃による本体・袖部の崩壊を軽減
⇒高強度ネット・アンカーの設置 (一体性の確保)



ポイント③: 施工にあたっての安全対策

⇒低振動の削孔機、3Dレーザースキャナーによる計測



【対策イメージ】

